

第 2 3 回平荘小学校狂言発表会《NO.5》

狂言を通じて伝えたいこと “狂言発表会を終えて”

子どもたちにとって、楽しみでもありドキドキでもあった、狂言発表会を終えることができました。子どもたちは、記念写真を撮った後、山口先生のお話を伺いました。



子どもたちの顔には、やり遂げた達成感や充実感と無事発表会が終了した安堵感等が溢れていました。

子どもたちが精一杯頑張った素晴らしい発表会になりました。



【山口先生のお話】

- 緊張したでしょう。楽しかったですか？
これから緊張する場面はいくらでも出てきます。緊張しても伝えなければならない場面はいくらでも出てきます。
- 自分が伝えた分だけ、自分に返ってくるのを感じられたと思います。
- 観客が集中してくださっている（気配）のを感じましたか。人間は五感をもっていますが、気配は第六感で感じます。
『気配を察する』ということは、『相手の気配を察する』ということです。相手の気配を察することができる人つまり、自分自身をみがく、そういう人になってほしいです。
- 平荘狂言は、リレー形式で表現します。狂言は、最初から最後までずっと笑いがとれる芸ではありません。ところどころにドカン・ドカンと笑いが起こります。その目立っているところだけに目をやるのではありません。目立っていないけれど、そこに大切なものがあるのです。



【山口先生のお話（続き）】

- 目立っているとところだけ見ていたら、絶対に間違う。
- 見えない部分がほとんどです。**本質は、見えていないところにあります。そういう目線（考え方）をもってほしいです。**

子どもたちは、狂言発表会の会場準備を進んでしていました。地域の方に感謝の思いをもちながら、自分にできることを頑張りました。

《狂言発表会に向けて》



狂言発表会本番の衣装に着替えた人から、自主稽古を開始しました。



狂言発表会当日に、子どもたちがスムーズに動けるようにと、準備をしています。

